

## 第1回大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会 議事要旨

- 日時：平成29年2月21日(火) 15:00～17:00
- 場所：JR静岡駅ビル PARCHE 7階第2・3会議室
- 議事内容

### 1. 規約

- (1) 異議なし。規約を承認し、2月21日をもって施行する。

### 2. 背景、進め方、現状・課題等について

- (1) (委員)平成35年度までに全体、平成30年度までに長島ダム下流の計画を策定する。このような進め方でよいか。
- (2) 意見無。了承。
- (3) (委員)領域区分、名称等も今後の議論の対象で良いか？
- (4) (事務局)連携方針での領域に合わせた形で提示しているが、議論の対象とする。
- (5) (委員)関係機関からの資料(P34 堆積土砂量の経年変化)をみると、塩郷堰堤上流で堆積が課題に見えるが、中電として、課題としての認識はあるか。
- (6) (中部電力)中電としては、あまり大きな課題とは認識していない。その都度、河床を維持する程度の対応としている。容量等について課題はない。
- (7) (委員)長島ダムの暫定放流量 $2250\text{m}^3/\text{s}$ は、どの地点で決まっているか。計画河床に対して、河床が高い場所にあたるのか？
- (8) (長島ダム管理所)千頭地区の川根大橋付近で決まっている。長島ダム下流15k付近で計画河床より高い箇所である。
- (9) (委員)計画を立てるにあたり、環境についての分析は加えるのか？土砂に係る生物相や環境を視点として、分析を加える予定はあるのか？
- (10) (事務局)難しい議論であると思うが、河口部であれば、ハゼへの配慮などを検討している。ダム領域では、濁水といった観点が議論になると考えている。
- (11) (委員)日本でも数少ない礫河原がある貴重な河川である。水辺の国勢調査などを参考に大井川らしさをデータとして明確に示すことが、土砂管理としても重要になるので、検討いただきたい。
- (12) (委員)資料1、資料2に各管理者が算定した土砂収支や河床縦断図等が記載されているが、これらの整合等は確認されているのか？各管理者がそれぞれ計測しているが、土砂管理としては統合していくことが重要である。また、計測方法等もわかるようにしてほしい。
- (13) (事務局)現時点では、事務局の静岡河川事務所が試算的に出したものである。今後、県のデータや海岸で整理している結果等との整合を図り、シミュレーションの精度も確保しながらやっていきたい。2年間の短いスパンでは困難な部分もあると思うが、7年の検討の中では進めていきたい。
- (14) (委員)海岸の越波災害は、過去の話としてよいのか。うちあげ高に対する安全性が確保されているのか。越波に対する安全性が確保されているといった観点も土砂管理として重要な

ファクターであり、確認する必要がある。

- (15) (委員) 河川環境の観点からも、川がどう動いているかが重要。現状では、流路が動きにくくなっているように思われる。土砂量の変化、流況の変化に伴う河道の動きやすさの変化が、流砂量に影響を与えるので、大井川らしさを含め検討してほしい。環境を考える上でも重要。

### 3. 論点、今後のすすめ方

- (1) (委員) 領域区分について、第1版で対象とするダム下流に、寸又川や榛原川等の支流も含まれるのか？榛原川は治山工事が多く入っているし、寸又川には中電施設もあり重要である。一方で、データが少なく、支流の土砂生産の状況が良くわかっていない。第1版の早い段階から考えていく必要がある。
- (2) (事務局) 支流、山地河川をどう把握するか、どのような役割分担で計測していくか考える必要がある。土砂量を面積割合で設定する等の考えもあり、どのような考え方で評価していくか、委員と相談しながら進めていきたい。
- (3) (委員) 粒径集団を決めていくためのデータはどのようなものが、どの程度あるのか？
- (4) (事務局) 直轄区間は、5年に一度程度河床材料のデータを蓄積している。
- (5) (静岡県) 県区間はほとんどデータがない。
- (6) (長島ダム管理所) 長島ダムでは堆砂対策の中でボーリング調査を実施している。
- (7) (委員) 流下能力がない箇所もある。土砂管理目標には、通過土砂量とともに、河道からの除去・掘削量等も入ってくるのか。
- (8) (事務局) 除去・掘削等の対策も含めて考えたい。
- (9) (委員) 河口付近で掘削を行えば、再堆積し、維持掘削が必要となることを考えておく必要がある。また、大井川港ではすでにサンドバイパスにも取り組んでおり、今後も継続が必要であり、目標として人為的な取り組みを示していくことも重要である。
- (10) (委員) 有効粒径集団に関して、河床固定の話もあったが、二極化の議論では細粒分が重要となる可能性があるので、それら考慮した区分を考えていくことが重要。
- (11) (委員) 粒径集団の設定は、今後重要になるものである。
- (12) (委員) 大井川の総合土砂では、人為的な土砂移動を取り込んでいくことが重要。
- (13) (委員) 基本原則について、提示されたものに大井川として追加する内容は何か想定しているのか。
- (14) (委員) 提示された基本原則は、総合土砂の原則と言えるかもしれない。
- (15) (委員) 例えば、ダム等が多い大井川はダムがない安倍川と異なるので、横並びで「連続性の確保等」は書きづらい内容かもしれない。
- (16) (委員) 人為的な移動も含めて、連続性を書くことはできる。
- (17) (事務局) 大井川の特長や頂いた意見を踏まえ、“大井川らしさ”が読み取れるような表現を考えていきたい。
- (18) (委員) 今後検討する課題認識と目指すべき姿を結びつけるような表現が良いのではないのか。
- (19) (委員) 一般論として、総合土砂管理計画では連携することのメリットが十分打ち出せていないのではないかと感じている。持続性やコストの観点から、各領域で個別に対応するよりも、連携することによってメリットがあることを示せると良い。

- (20) (委員) 土砂管理指標に時空間的な幅を設定しようとする、過去からのデータが必要であるが、必要なデータは整理されているか？ 2年という短い期間で検討するならば、まずデータの所在を確認した方がよい。
- (21) (事務局) データの確認を含めて、考えていきたい。
- (22) (委員) 網状河川で河床ひとつとっても評価が難しい。その意味でも、幅を持った評価ができる指標等を念頭に検討することが重要と考える。
- (23) (委員) 人為的なコントロールがなされ、その結果、川が変化しつつあることを考える必要がある。既に計画が策定されている安倍川とは違う大井川の視点が必要。人為的なコントロールとして流況の変化があり、流況は土砂移動量を変化させるので、視野に入れた検討をしてほしい。
- (24) (委員) 土砂管理として流況を管理するのは難しい。一方で、流況と土砂移動量の関係を理解し、検討に反映することは重要である。

以 上